特定非営利活動法人
おおいた子ども支援ネット

にじいろはーと vol,19

2021
発行日
2021 年 6 月吉日
発行元
特定非営利活動法人
おおいた子ども支援ネット
事務局

雨後の緑が目に鮮やかな季節となりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

おかげさまで、おおいた子ども支援ネットは創業７年目を無事に迎えることができました。社会全体が未曾有の災禍のなか、みなさまのあたたかいご支援やご理解・ご協力、心より感謝申し上げます。今年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

「にじいろはーと１９号」では、新しく仲間に加わった職員をご紹介いたします。法人職員総数は５１名体制になりました。あらたな仲間の想いがあふれる「文字たっぷり」の紙面になりますが、どうぞご覧ください。

まずは、「放課後等デイサービスなないろ」施設長就任のごあいさつより。

放課後等デイサービス　なないろ

「放課後等デイサービス　なないろ」施設長　山本浩二

このたび貴重なご縁をいただきまして、放課後等デイサービス「なないろ」の施設長に就任いたしました山本浩二と申します。どうぞよろしくお願いします。

我が身を振り返ってみますと、既に還暦を過ぎ、大学卒業後 40 年近くの歳月が流れる中で、数え切れないほど多くの人々との出会いを重ねて参りました。

私は昭和 57 年に大分県庁の職員として社会人の道を歩み始め、以来 34 年間の県庁生活のうち 25 年間、「福祉・保健行政の現場」の仕事に取り組まさせていただきました。県下各地の福祉事務所、保健所、児童相談所、児童自立支援施設（二豊学園）といった職場において、貧困、精神障害、ひきこもり、DV、いじめ、不登校、児童虐待、少年非行など、社会が抱える闇とそこに置き去りにされた数多くの人々や子どもたちと出会い、それぞれの人生に関わらせていただきました。

また、県庁退職後も大分県に初めて創設された児童心理治療施設「愛育学園はばたき」の施設長として 4 年間、被虐待児や発達特性を持つ子どもたちと生活を共にしながら、親子再統合を目指した支援に取り組んで参りました。

私自身が年齢を重ねる中で、かつて出会った子どもたちも 20～40 代になり、大人になり、親になり、同じ社会人として再会する機会に恵まれることがあります。親元を離れて社会的養育などの支援を受けながら大学等に進学し、教員や公務員、児童指導員、介護士、看護師、保育士などの道を歩み始めている若者もいます。自分の特性を活かし、調理師や板前、IT 関連の技術者、土木建築の職人などとして活躍している人もいます。すばらしいパートナーと出会い、出産した我が子を抱いて誇らしげに来訪する女性もいます。しかし、一方では学校や社会に適応できないまま孤立し、ひきこもりの状態が続いたり、自殺を図ったり、犯罪行為に走ったりする人たちがいるのも事実です。

このような現実を目の当たりにする今、「おおいた子ども支援ネット」が目指す「子どもや家族の『育ち』に合わせた柔軟かつ長期間にわたるサポート体系の構築」が必要不可欠であることを痛感しています。そして、その実現に向けて皆様と共に力を合わせて取り組んでいきたいという思いを強く抱き、この度、当法人の一員に加えていただいた次第です。

今回施設長に就任するにあたり、「なないろ」が積み重ねてきた 6 年間の成果と課題を踏まえて見直しを行い、子どもたちや保護者の皆様方のご期待に添えるよう決意を持って新年度をスタートいたしました。子どもたちとの出会いに感謝し、子どもたちに「安心・安全」そして「笑顔と感動」を提供できる放課後デイとして、職員一同力を尽くしていきたいと思います。ご指導、ご協力、叱咤激励のほどよろしくお願いいたします。

職員紹介

今回は、昨年度以降に新採用職員として働いている職員の中から５名をご紹介☆
みなさんに「こども・若者支援に関わるきっかけ」や「働いてみて感じたこと」
「これからの抱負」などなど…自由に語ってもらいました！！

おおいた青少年総合相談所

児童アフターケアセンター　生活相談員（心理士）
濵松（はままつ）　歩生（ふき）

大学在学中に、自立するってなんだろうとか「相談する」ことのハードルを下げるためにはどうすればいいんだろうなどの疑問から、なにか解決のヒントはないかと、県内外関係なく様々な「居場所」と呼ばれるところへの訪問を行っていました。そして、就職というタイミングで「おおいた子ども支援ネット」と出逢いました。お話させていただく中で、いわゆる「支援する」ことに関して、困りを抱えていらっしゃる方々と「一緒に考え、歩む」を大切にしていることや、型にはめるのではなく一人ひとりに合った解決策を探していく考え方で向き合っていることなど様々な考えに触れ、感銘を受けました。また、私自身の持つ疑問に対しても、解決の大きなきっかけが得られると感じ、一気に惹き込まれました。そのまま「私もおおいた子ども支援ネットの活動に関わりたい！」と湧き上がる想いを抑えきれず、この度香川県からやってきました。

まだまだ反省と学びを繰り返す毎日ですが、「上手くいかなかったことこそ共有して、どう次につなげていくかを考えよう」と言葉をくださったり、些細な疑問や悩みにも職員の皆さんが丁寧に聴いてくださったりと、その優しさと職場の明るい雰囲気に救われています。

相談にいらっしゃる方とお会いしていく中で、社会に出ることに対する漠然とした不安、社会に出て新しい環境に飛び込むことや人間関係を築くことへの不安など色々な気持ちが複雑に絡み合っていることを知りました。その中でアフターケアセンターに「相談する」という大きな一歩を踏み出してくれたことをしっかりと受け止めながら、一緒に考え、歩んでいきたいと思っています。

おおいた子ども・若者総合相談センター
おおいたひきこもり地域支援センター　相談員
西谷（にしや）　由紀（ゆき）

私は、おおいた青少年総合相談所内にある、若者の就労支援機関で５年間働いていました。そこで、障がいや不登校等さまざまな理由で仕事をはじめるのが難しい方、仕事に就いてもいろいろな壁にぶつかって悩みながらも頑張っている若者との出会いが、たくさんありました。

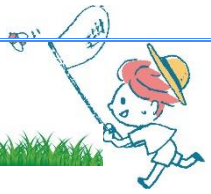
そんな若者たちは、人に慣れることからはじめる方、生活習慣を整えることから始める方、あるいは、すぐにアルバイトに応募できる等、スタートラインはそれぞれ違います。相談していく中で、そんな方々がステップアップしていく姿をみて、嬉しく感じていました。また、相談に来られた保護者の方からは、「こどものことで悩んでいたけど、気持ちが楽になった。」とお言葉をいただき、ホッとすることありました。このような経験から、今後もこどもや若者の支援に関わる仕事を続けたいと思う気持ちが強くなりました。そして今年度、素敵なご縁をいただき、「おおいた子ども支援ネット」に仲間入りさせていただくことになりました。

おおいた青少年総合相談所の勤務が始まり2カ月が経ちました。複雑化・複合化している課題のあるご家族による電話相談には戸惑うことばかりです。また、さまざまな分野の関係機関との相談や連絡も多く対応に苦慮しています。

いつも『あの時、あんな風にお話しておけばよかった』『あんな言葉でお答えしたほうがよかった』と日々反省しながら難しさを感じています。このような時、職員の方から【相談者ひとり一人に必要な支援は何かを考えていくこと等】を丁寧に教えていただき、とても勉強になります。また、職員の方々は、とても明るく、雰囲気の良い職場で楽しく仕事に取り組めています。

相談を受けることで、いろいろなことが学べる職場だと感じています。これからも失敗を恐れず挑戦していきたいです。相談される方々に真摯に向き合い寄り添うことで、少しでも気持ちが楽になってもらえるような関わりができるように、日々努力していきたいと思っています。

放課後等デイサービス　なないろ



児童指導員（社会福祉士）
柴尾（しばお） 美空（みく）

私は、当法人で、大学3年次に相談所の学生サポーター、4年次に不登校支援を考えるゼロイチプロジェクトを務めさせて頂きました。ケースや実際に出会った子どもたちの生きづらさに触れ、そのような子どもたちに寄り添いたいという気持ちが強く育っていったとともに、プロジェクトをやる際に当事者とお話をした際に感じた、子どもの可能性に対するワクワク感や子どもと一緒に夢を想像していく楽しさが胸を離れず、子どもの生きづらさに共に向き合い、共に子どもと夢を想像していきたいという強い想いから、子ども支援の道を選びました。

なないろで働いて 2 か月、感じたことはやはり、子どもたちはかわいいということです。そして、なないろの子どもたちは素直で優しい子たちであるなと思っています。ですが、優しいからこそ傷つきやすいのかなとも思いますし、また、口で伝えるよりもつい手や足が出てしまったりと、特性の難しさからも、不器用さや生きづらさを感じる時が多々あります。そのような子どもたちに対し、日々どう声掛けしたり関わったりするのがよいか試行錯誤していますが、時にそれが子どもに嫌な思いをさせてしまうこともあったりと、失敗も多いです。しかし、これからもへこたれずに、子どもの気持ちを理解しようとしながら、子どもたちと関わっていきたいと思っています。

まず、子どもたちの深い理解（どうしてこのような行動をとったのか、子どもたちは今どんなことを感じているのか）を進めることが大切だと思っています。そして、子どもたちと関係性を築き、子どもたちにとっての「信頼できる大人」になりたいです。その中で、子どもの叶えたい夢や未来を本人の口から沢山聞けるようになり、明るい子どもたちの夢や未来を支援していきたいと思っています。最後に、日々慌ただしく過ぎていく中で、子どもたちへの“想い”や、周りの方々への感謝を忘れずに、日々大切に過ごしていきたいなと強く思います。

児童指導員（社会福祉士）
本多（ほんだ） 朴子（なおこ）

私は元々、加害者支援に携わることのできる福祉の道を目指していたのですが、幼馴染である友人をきっかけに、子ども支援に関わりたいと思うようになりました。その友人が、親の離婚や再婚によって、家庭での居場所がないまま生活していたことを大学 4 年生になって知り、その際に、新たな家庭環境になじむことができず、安らぐことのできるはずの家に帰ることができないという苦しさを抱えて生きる人が、私の身近なところにいたことに衝撃を受けました。このようなことから、居場所のない子どもたちへの支援を目的に設立されたおおいた子ども支援ネットで、様々な理由から生きづらさを抱える人の力になりたいと思うようになりました。

入職して約 2 か月、毎日子どもたちと関わる中で、やっと、名前で呼んでもらったり、話しかけてもらったりする回数が増えてきたように感じます。子どもたちはとてもかわいいですし、先生方もとてもあたたかく、一緒に支援をしていこうと、様々なことを優しく丁寧に教えてくださるため、おおいた子ども支援ネットで、そしてなないろで、働くことができて良かったと思っています。また、可愛い子どもたちの生きづらさの背景を知るたびに、衝撃を受けます。数カ月前までの教科書上での学びでは感じることができないリアルを知って、「これが現実か。」と実感する毎日です。

まだまだできることも少なく、日々、子どもたちや他の先生方から学ぶことばかりで、ご迷惑をお掛けすることが多いですが、「失敗していいんだよ。」「やってみなよ。」と背中を押してくださるおかげで、毎日、子どもたちと自分なりに関わることができています。今は、気づきがあっても、うまく言語化することが難しく、他の先生方の言葉を借りながら、そういうことかと納得することが多いので、今後は、来るたび、同じようで違う子どもたちの微妙な変化を察知し、自分なりの気づきをもっと言葉にできるように、たくさん子どもたちと関わっていきたいと思います。

ご意見・ご質問等あれば、下記事務局まで電話またはメールにてお尋ねください。

おおいた子ども支援ネット
HP：http//oita-kodomosien777.net

〒870-0035　大分市中央町 2 丁目 2－18 豊国屋ビル 201
「おおいた子ども支援ネット」事務局
TEL:097-574-6108　FAX:097-574-6109
MAIL：jimukyoku@oita-konet.net

こどもセンター　かおるおか

児童指導員（臨床心理士）
小畑（おばた）　暢子（のぶこ）

障がいのある兄と一緒に育ち、きょうだい児としての葛藤がなかったわけではありませんが、友だちや先生、地域の方などあたたかな風土に恵まれ、私自身が支えられてきました。兄とともにいることが自然だったことから、将来は障がい者支援や児童福祉の分野で働きたいという希望を持つようになりました。

福祉職を目指しながら心理学を専攻したのは、人と関わる仕事だからこそ、障がい云々ではなく、相手を理解して寄り添える人でありたいと考えたからです。

社会人となり、障がい福祉、社会的養護、保健福祉、教育と多くの分野で、乳幼児から成人の支援に携わる機会を得ました。その経験を振り返る中で、『子ども時代の豊かな出会いや経験がその後の歩みを支える力になるのではないか』、『子どもの支援は家族支援と共にあることが重要なのではないか』、『居場所が見いだせる地域で安心して暮らしてもらいたい』と感じていた頃に、このご縁をいただきました。

実際に働いてみて感じることは、子どもも家族も職員もみんなが自然で、その人らしさが大切にされているということです。誰もが無理せず、ありのままの自分でいられる居場所なんだなぁとほっこりし、自分もそうありたいと身が引き締まります。

ともに暮らし、子どものなかにある答えに心を砕きながら支援する難しさに戸惑うことも多い日々ですが、先生方のひとりひとりの子どもを深く理解しようとする姿や家族の思いに耳を傾け、安心して暮らせるように寄り添う姿を目標に、自分の在り方に向き合うことで一歩ずつ成長していきたいです。

編集後記　～事務局より

事務局です。昨年度は思いがけない一年を過ごしてきました。そしてそれは今もなお、先の読めない不安を社会にまき散らし、こども福祉の現場でも日々格闘が続いています。「新型コロナウイルス感染症」は様々な脅威をもたらしていますが、「安心安全に暮らすことの価値」を見直すことの必要性、「さまざまな状況にある方々の暮らし」を考える機会にもつながっています。こどもたちの声からも、「毎日登校するはずの学校に行けない」、「楽しい給食時間におしゃべり禁止」「学校に行くのが嫌になった」など、「あたりまえの毎日の大切さ」を感じています。

このような時代に、私たちが取り組むべきことは何か。それはまさしく「あるべき姿」について真摯に語り、ねぎらい、ともに歩むことだと思います。先の読めない不安が大きいからこそ、そこに「希望を見出したい」。その「希望」は決して特別なことではなく、きっとこの社会にあるあたりまえのこと。そしてそれは通常の暮らしの中で見過ごしがちなことかもしれません。もっと言えば「人のつながり」そのものかもしれません。社会的孤立、自殺者の増加等の社会的課題はまさしく「つながりの断絶」でもあります。私たちは今の時代だからこそ「つながり」を大切にしながら、法人一同、明るく前向きに進んでいきたいと考えます。

さて、お知らせがあります。実は法人設立当初から根幹的な事業であった「児童自立生活援助事業」（自立援助ホーム・子どもシェルターの運営）を休止させていただくこととしました。理由はいくつかありますが、主たる理由としては「挑戦！」です。決して後ろ向きな話ではありません。自立援助ホームは 16 歳以上 20 歳未満（大学進学児童は 22 歳まで）の入居対象が制度により設定されています。でもですね。。。20 歳の誕生日前日に自立の準備が OK？もともと苦しい過去を背負って、必死で生きてきたこどもたちです。現実には 6 年間の運営の中で 4 割以上の入居者が「20 歳を超えても入居していました。時間がかかるのです。「児童福祉法の限界」を感じながら、「あるべき姿」を模索していこう―そんな意味を込めた「挑戦」です。

私たちおおいた子ども支援ネットは「すべてのこどもたちに明るい未来を！」を理念に掲げています。まだ薄暗い時期に「出ていけ」とは言えません。それぞれに合ったスピードで、それぞれに合った方法で長く、緩やかに社会が見守るためにはどのようなものが必要なのか？その議論はずっと長く続いていました。たまたま、入居する方がすべて行き先を確保できたタイミングが昨年度末に訪れただけです。ご心配をおかけしたかもしれませんが、「前向きな休止」です。司法と福祉が手を取り合いながら、今後の入居型支援のあり方に向けて検討を重ねていきます。いわゆる「自立支援」についても模索していきます。どうぞこれまでと変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

先の読めない中、こどもたちの歩むその先をしっかりと照らしながら、令和 3 年度もスタートします。

「すべてのこどもたちに明るい未来を！」

特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット　専務理事・事務局長　矢野茂生